

WFCの誕生と積極的なかわり

New Era with the World Federation of Chiropractic

Official Japanese affiliation with the World Federation was achieved at the WFC Toronto Assembly in 1991. Before that the JCA had sent delegates to London and Sidney respectively.

The impact of the WFC has been to make each country aware that a specific identity must be

maintained for chiropractic. This particularly means affirming international standards of education. How the Japanese cope with the worldwide trend toward uniform standards of education has become a major issue. This concern will lead to an international joint program for chiropractic education in Japan.



プレジデント・サミット1987 (英国)

International Chiropractic Conference



Dr. A. Christiansen, President of ECU greets Chiropractic leaders from the World

ヨーロッパ・カイロプラクティック協会 (ECU) の年次大会を利用して、初の世界のトップリーダーを招集して歴史的なプレジデント・サミット会議が開かれた。各国代表は国内の問題点を述べ、世界のカイロプラクティックに共通したアイデンティティを保持し、そのために、国際的な統一基準が必要だとの強い意見が出された。

カイロプラクティック・スポーツ連盟 (FICS) も結成され、いまやカイロプラクティックが北米だけでなく、地球規模になりつつあることを印象づける会議であった。ハイライトは1年後を目標に国際的な連帯組織を創立することを満場一致で可決したことである。新しいカイロの歴史が始まった。

The Town Hall
Royal Borough of
Kensington and Chelsea,
London



There was an unanimous agreement for
Chiropractic Unity Worldwide

シドニーでWFC設立総会 (豪州) 1988

World Federation of Chiropractic was formed in Sidney



Mr. Chapman-Smith acts as a moderator

ロンドン会議から1年後、世界のカイロ・トップリーダーはオーストラリアのシドニーで行なわれたカイロプラクティック・コンGRESS'88に集まった。

10月4日の会議に集まった21ヵ国24団体代表の合意で、世界カイロプラクティック連合 (WFC) の創設が正式に決まった。

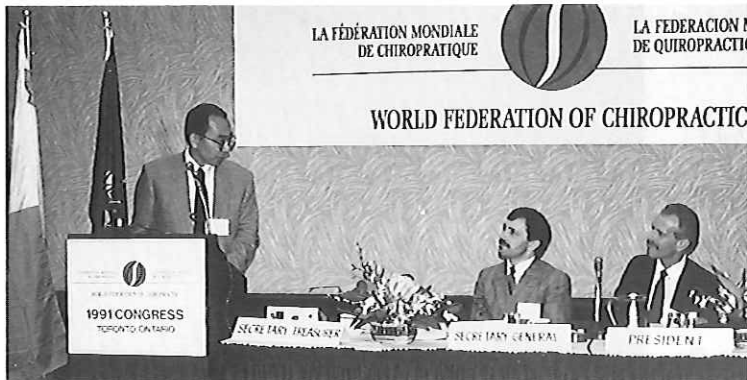


Officers and representatives from chiropractic around the world

カイロプラクティック・コンGRESSは美しいシドニー湾に望む有名なオペラハウスとコンチネンタルホテルを会場に開かれた。カイロに関する教育、歴史、実技、研究などテーマ別に世界各国の代表が発表、どの会場も熱気につつまれていた。

WFC創設はチャプマン・スミス弁護士を実行委員長に草案が具体化され、細部の打ち合わせと合意が行なわれた。ECU代表のディエム会長は「我々はカイロプラクティックの発展と権益確保のため、カイロ教育においてCCE基準以下の教育は絶対しないよう」との決議文を提出、満場一致で採択し歴史的な会議の幕を閉じた。

トロントWFC大会(カナダ)1991 World Chiropactic Congress Toronto



Dr. Takeyachi gives a report on chiropractic development in Japan.



CCJ: The Chiropractic Council of Japan was formed in Toronto and the CCJ became an official member

WFCの第2回アセンブリー(総会)がカナダ・トロント市のロイヤルヨーク・ホテルで4月30日、5月1日の2日間開かれた。総会はトロント市長の開会宣言で始まり、WFC役員の見舞、各国代表の国別報告、活動報告、規約改正と盛り沢山の行事が続ぎ、初日夜は3百名の代表が参集して国際色豊かな歓迎パーティが開かれた。

トロント会議は日本がWFCに正式加盟できるチャンスであった。しかし、日本のカイロ業界は乱立し、DCもその例外ではない。日本のカイロ業界が国際的な場に受け入れられる名誉の一方、DCによる自主的な統一団体への道のりは困難なものがあった(詳細は92頁参照)。

しかし、いまや日本のカイロが国際的に孤立出来ないことも自明であった。

トロントの総会から日本側代表は、加盟国の一員として総会で報告することになった。新しく合意された統一団体の名称は「日本カイロプラクティック評議会」(通称CCJ)。日本における国際的な窓口と教育問題をメインテーマに活動を始めることになった。

今回はアメリカ腰痛学会の後援を受けアカデミックな学術大会が開かれた。

香港WFC役員会1992 Hong Kong: 1st WFC Board Meeting in Asia

7月30、31日の両日、香港のシャングリラホテルで世界カイロプラクティック連合(WFC)の役員会が開かれた。アジアで開かれる最初のカイロ国際会議であり、日本からCCJのコチエマン、竹谷内、遠藤両DCが参加した。アジア地区の代議員は香港のDr. ボーン。WFC創立3周年を迎えて任期満了に伴う役員改選で、新会長に副会長のDr. ディエム(スイス)が選ばれた。

まる2日間朝空夜まで続いた会議の初日は、WFC会長報告、会計報告、地域代表報告(7地域)、規約改正、今後の大会予定などを審議。2日目はWHO関係、1993年度予算、役員改選などが主な議題。ディエム会長から、1993年のロンドン大会はWHOの講演を受けたこと。今後WHOとの関係を密接にもつ意味からWHOと協力して「職業保健上のカイロの役割」と題するマニュアルを計画。そのための費用10万ドルを募金する。

ちなみに、WFCの目的は (1)カイロや健康の分野で各国および国際的なオーガニゼーションに情報その他の協力をする (2)カイロの教育、研究、業務に、世界共通の高い基準をめざす (3)カイロに関する、正しい啓蒙活動を行なう (4)会員(各国協会)からの要望に応じ、カイロの適正な法制化の助言を行なう。WFCへの加入申し込み国は増加の一途で、この時点で約50カ国に達した。



WFC executive meeting in session

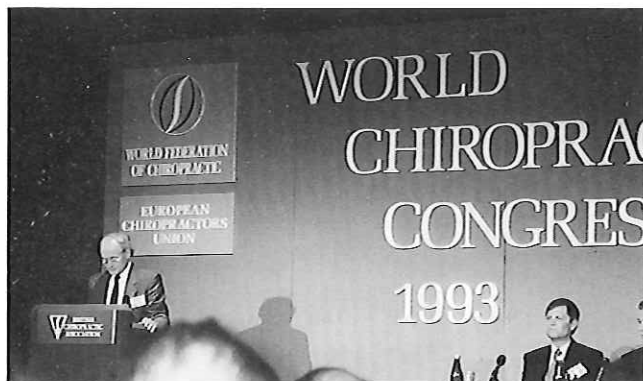


WHOの後援でロンドンWFC大会 1993

World Chiropractic Congress London
Co-sponsored by the World Health
Organization (WHO)

世界50カ国以上の代表が二年に一度集まるWFCアセンブリー(総会)は活発な外交の場である。日本代表(C C J)の竹谷内一恵、遠藤光政両氏はカイロの世界最新情報を我が国に伝える役割と、日本の事情を世界のトップリーダーに伝え、国際的な立場から日本のレベル向上に協力を要請する外交を行なった。その結果、1997年のWFCアセンブリーと学術大会を東京へ招致することに成功。閉鎖的な日本の行政に対し、国際的な立場からカイロの正しい認識を迫る好機となろう。

ロンドンでの主要なテーマになったのは、カイロプラクティックの「教育基準問題」であった。国際的基準として合意を得ているものは、高卒後5~6年以上の、大学レベル(フルタイム)のカイロ教育(基礎医学・臨床専門科目)であるが、欧米以外の発展途上国では大きなニーズがありながら、その教育基準を満たすことには種々困難な事情がある。圧倒的な声は、カイロの国際基準を下げることに反対であった。百年の困難な歴史を経て今日の立場を獲得した先進諸国のカイロ関係者には、そのアイデンティティを固持する決意が見てとれた。同時にそのカイロ教育をいかに世界に普及するか、その答えはこれからだ。



Opening speech by Dr. Mikeev of WHO



Japanese delegates with Dr. Scott Haldeman

カンクン(メキシコ)で学術大会とWFC会議 1994

1st Latin American Congress of Chiropractic
Co-sponsored by the Collegium of
Scientific Chiropractic of Mexico and
Northwestern College of Chiropractic

1994年5月、メキシコのカンクン市でWFCの役員会とメキシコ・カイロ協会・米ノースウエスタンカイロ大学共催の第1回ラテンアメリカ・カイロ大会が開かれた。南アメリカでのカイロ発展は、教育機関がなく、国内資金事情で海外留学も困難だが、これを契機に積極的な教育機関設立に向け動き出すことになった。



WFC韓国問題の討議 WFC Forum on Chiropractic in South Korea

メキシコのカンクンで開かれたWFC会議の期間中、韓国でのカイロ問題がKCA(韓国カイロ協会)の提案で討議された。現在カイロプラクティックは韓国で認められていないこと、制度化された東洋医の一部がカイロを伝統的な手技療法「チュナ」の中で利用し、日本やアメリカから招かれたカイロ講師も彼らに技術を教え広めていること。それは韓国の将来のカイロ発展に大きな問題となること。KCAはWFCを通じて、韓国の問題解決に協力して欲しいと訴えた。アメリカで現在カイロを学ぶ韓国人は百名に達するといわれ、将来は韓国のカイロプラクターの手による業界づくりをめざしている。



カイロプラクティック誕生百年祭開く

World Chiropractic Congress Washington DC

WFC大会も同時開催 1995



教育の国際化に焦点

1995年のWFC大会は、カイロ百周年行事プログラムの一環として米ワシントンDCで開催された。WFC総会がカイロ百周年行事の開始日となり、また当日の7月4日はアメリカの独立記念日と重なって、市内はお祭り気分が賑やいだ。

WFC総会は事務局長報告、国別代表者報告と続き、今回は2年前の総会からの継続審議である「国際的なカイロプラクティック教育」が取り上げられ、2時間がその議論に費やされた。特にアメリカ以外の国々、特に正規なカイロ教育不在のアジアと南アメリカに新しくカイロ教育機関が誕生しつつある現状を、それぞれの当事者が報告。アジアでは日本からの報告として、始めてRMIT大学日本

校が国際舞台で紹介された。会場にはオブザーバーとして6名のRMIT日本校学生が出席し、総会参加者に紹介されると大きな拍手が贈られた。

国際的なカイロ教育基準作りのためロンドン総会後、スエニー副会長(当時)を中心に検討した草案が総会に提出され、議論のタキ台になった。それは12章からなる国際教育憲章の制定、外国で教育や研究を行うことに関するコミュニケーション・プロトコル、国際的な教育機関の認可メカニズムの3点からなるものだった。今回の議論に基づいて修正案を作り、2年後の東京総会でガイドラインの提示と承認する合

意をした。

WFCのプログラム最終日、恒例の晩餐会の席上、長年の日本のカイロ業界への功労に、WFCから竹谷内一恵氏に対し日本人で最初の栄誉賞が授与された。

日本人初のWFC栄誉賞



Dr. Takeyachi receives WFC Honour Award

チャプマンスミスWFC事務総長が来日

Mr. Chapman-Smith WFC Secretary-General lectures in Japan

東京と京都で講演 1996

WFCのチャプマンスミス事務総長は世界大会の打ち合わせを兼ねて1996年9月20日に来日し22日と23日の両日、京都と東京で講演。同氏は講演の中で今後WFCは日本に力を注ぐことを約束した。

「過去20年間私はカイロプラクティックの弁護活動に従事してきた。私の住むカナダでは腰痛や頸椎の有効性が過去5年間に証明され、カイロに来る患者は医師の紹介が多くなってきた。これは世界的な傾向だ。アメリカでは全州法制化され、現在6万人のカイロプラクターがいるが、過去10年間大きな変化が起こり、カイロの支持層が一般人だけでなく、医師、政界、経済界に広がった。こうした変化はカイロ大

学教育への政府予算導入を可能にした。この夏に政府予算を使ってカイロの研究会議が行われた。これは以前は考えられない出来事だ。

カイロは英語圏以外の国々にも広がっている。WFCでは今後2つの地域に重点を置くつもりだ。1つはラテンアメリカ。それ以上に重点を置きたいのはアジアである。アジアでは日本にそのリーダーシップを期待している。日本はカイロ業務が最も盛んな国であり、世界における日本のポジションを考えても重要な地域だ。WFCは93年に日本で世界大会を決定した時点で、今後日本に力を注ぐことを決めた。

世界大会は教育だけでなく法制化への布石としても重要だ。92年には香港

WFC事務総長
チャプマンスミス
弁護士



でWFC会議が行われ法制化が実現した。93年のロンドンでのWFC大会は英国の法制化に重要な意味があった。英国はDCとノンDCが混在する日本とよく似た状況にあった。英国政府はDCもノンDCも力を合わせて活動することを進め、世界大会後に法制化が実現した。もし日本が英国から学ぶことができれば、世界大会後に日本のカイロ事情は大きく変わるだろう。20年前は医学界のカイロに対する態度は「非科学的」で、「三浦レポート」も同様である。しかし、この10年で劇的に変化した。WFCの研究重視もその変化に大きく貢献した」。(要旨)



WHOがカイロプラクティックを公認 1997

WHO recognizes World Federation of Chiropractic

その意義

1997年1月、WFCはWHOから加盟申請を受理され、正式な関係に入ったとの報告を受けた。WFCのスエニー会長は「WHOのカイロプラクティック公認は、多くの国々においてカイロプラクティック法制化と業務の発展に非常に重要な影響を与えるだろう」と述べた。

世界の健康・医療分野の表舞台はWHO（世界保健機関）であり、WFCにとってWHO加入は設立当初からの目標であった。しかし加盟には幾つかのハードルがありそれをクリアしながら3年前より加盟申請を行ってきた。

WHOへの加盟はどんな意味をもつのだろうか。1つは世界のヘルスケア職業の正規一員として処遇される。いままでカイロプラクティックは世界の檜舞台に立てなかった。例えば、どれほどカイロプラクターが腰痛のエキスパートでも国際舞台では

門外漢で、立場も情報も閉ざされていた。これからは情報も役割も与えられる。2つは、WHOが世界各国政府機関（GO）として加盟しているの、法律のない国、例えば日本にとってWHOは厚生省と折衝する機会を作る。3つめは、WHO公認は職業にステータスを与える。WFCの科学シンポジウムを毎回WHOが後援する理由もそこにある。

WHO代表がWFCの会合挨拶で必ず述べるのは「カイロプラクティックの教育基準を守る限り支援する」（マニラ会議）とか「正規な教育・訓練が極めて大切」（オークランド総会）など、レベルの高いカイロ世界標準を守る大切さの強調だ。WHO加盟のステータス維持には、今後いっそうの責任と役割を果たして行かなければならない。国際舞台で活躍できる特権とカイロプラクティックの社会的責任（国際基準の教育と研究）は裏腹といえるだろう。

WHO

WHO（世界保健機関）は1948年に、すべての人々に高い水準の健康をもたらすことを目標に設立された国連組織。200カ国が加盟。政府組織（GO）と非政府組織（NGO）の2つからなり、NGOには世界医師会など200近くの医学医療団体が加盟している。その活動範囲は伝染病撲滅、公衆衛生の向上、麻薬や環境問題など多岐にわたる。WHOは1977年に伝統医学を見直す決議をし、1987年に鍼灸界から世界鍼灸学会（WFAS）が加盟。今回カイロの国際組織（WFC）はノン・メディカルな分野では2業種目。加盟するにはその業種の、①国際性、②科学性、③活動実績、④加盟団体の推薦、など厳しい条件がある。

アジア カイロプラクティック連盟(ACF)が発足

Asian Chiropractic Federation Starts—1997

1995年のWFC東京大会の期間中、アジアのWFC加盟国代表が集まり、アジアにおいてヨーロッパ・カイロ連合（ECU）のような連合体を結成する話し合いがあった。特にアジアのカイロプラクティックは法律、教育すべての面で欧米から立ち後れており、将来の可能性を考えると協力関係を促進する組織作りは急務であった。

翌年の1998年1月、それを具体化するため香港に、日本、香港、韓国、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポールの7カ国代表が集まり、アジア・カイロプラクティック連盟（ACF=Asian Chiropractic Federation）が結成された。会議では規約が討議され、基本的にWFC規約を原案にした案が出された。会長にはフィリピン代表のジェムソン・ウイDCが選ばれ、参加した代表は団結してアジアにおけるカイロプラクティッ

クの発展を期す誓いを立てた。

ウイ会長は加盟国内でのコミュニケーションを密にすることが発展の基礎となる、と訴えた。

1999年5月のWFC総会後にACFの会合が開かれ、7カ国の代表が集まった。ウイ会長は、ACF加盟国はそれぞれ文化、言語、距離などに大きな差があり、統一した組織ACFを軌道に載せるのは容易でないこと、特に国内に代表団体の他に対立グループがある場合はACFの活動にも悪影響を及ぼすことを述べた。

ウイ会長はまた、次の短期目標を掲げて協力を求めた。①ACFの規約を正式に採択し、役員を選任する、②インターネットでアジア各国で開業する正規なカイロプラクターの名簿を作る。この名簿はカイロプラクターの間で患者紹介に利用でき、またアジアのカイロプラクターの間でのコミュニケーション促進になる。



ACF会長
ジェムソン・ウイDC

この会合で新しいACF役員が次のように確認された。

（1999年5月現在）

会長	ジェムソン・ウイ （フィリピン）
副会長	エロワード・リー（香港）
会計	中塚祐文（日本）
書記	ジャネット ソスナ （シンガポール）

輝け! カイロプラクティックの新時代

A glittering new era in Chiropractic!

'97年WFCカイロプラクティック 世界大会TOKYO '97 WFC WORLD CHIROPRACTIC CONGRESS TOKYO

1997年6月6日(金)・7日(土)・8日(日)
June 6-8, 1997



1,800名を集めたWFC世界大会

WFC世界大会TOKYOが、1,800名の参加者を集めて、有楽町の東京国際フォーラムで開かれた。大会前半の総会は4、5日の2日間。後半の科学シンポジウムはWHOの後援で6日から3日間開かれた。

総会では2年前のワシントン総会から継続の「カイロプラクティック教育問題」が審議され、執行部提案の11条からなる国際カイロプラクティック教育憲章が、満場一致で採択された。この憲章は法制化されていない国々が正規なカイロ教育を導入する際のガイドラインとなるもの。WFCは過去20年間、世界各国で無秩序に広まる低レベルの「カイロ教育」に危機感を抱いてきた。日本はその代表格だ。

科学シンポジウムの挨拶で、WFCのスエニー会長はアジアで最初のWFC大

会が盛大に開催されたことを喜び、このシンポジウムの意味、そして1月にWHOがカイロプラクティックを公認した意義を伝えた。WHOのミキープ産業医学局長は、今後のカイロプラクティックへの期待を述べた。日本側の遠藤光政組織委員長は、この大会が日本のカイロプラクティックの大きな進歩と発展につながることを祈ると述べた。

今回のメインテーマは「頸椎—その構造、機能、障害、疾病、ストレスとの関係」。3日間のシンポジウムでは、基調講演4題、特別講演6題、一般演題47題、パネル発表、記者会見、在米日本人DC



懇談会、FICS会議、ACF設立会議、健康フォーラム、展示会「カイロワールド」など多彩な催し物があった。

最終日、500名が参加するWFC晩餐会が帝国ホテルで行なわれた。挨拶には小泉純一郎厚生大臣が出席。WFC栄誉賞が世界的な生理学者・佐藤昭夫先生に贈られた。

カイロが日本で発展するのを願っています

Minister of Health Honorary J.Koizumi supports chiropractic

——— 小泉純一郎厚生大臣挨拶 ———

私は国会議員の中で、カイロプラクティックの素晴らしさ、有効性を最も理解している議員の一人だと思っております。

いま多くの国民が健康に大変な関心をもっており、日本はお陰様で世界で一番長生きできる国になりました。長生きするのは長年の人類の夢でしたが、長生きするからには健康で元気に長生きしたいものだというのは、誰でもそう思っております。

私は病気を直す、あるいは健康になるのには、いろいろな治療があつていいと思います。その治療法の中でカイロプラクティックは、薬を使わない、注射を使わない、副作用のない、そして名医にか

かれば、こんなに有効な治療法はないと思っています。しかしどんな医者でもヤブはおります。その中でカイロプラクティックの良さを知りたいと思って、中にはそんな名医でないカイロの先生にかかって被害を受けている方もいるということ是非常に残念なことです。

それだけに、このたびの世界大会を契機に、日本でもカイロプラクティックの素晴らしさを理解する国民が増え、そしてカイロプラクティックの技術者、お医者さんがますます勉強、研鑽に励んで資質を向上させて、国民のために大いに頑張っていただきたい。そしてカイロプラクティックは、健康で長生きする誰もが望む有効な治療法の一つとして、世界で

小泉純一郎
厚生大臣
Mr.J.Koizumi
Minister of Health



そして日本でますます発展し、定着することを私は心から願っています。

この世界大会では、世界の先進国の多くの素晴らしい先生方の知識や経験を学んで、日本のカイロプラクティック業界も多くの方々がより一層研究、研鑽に励まれまして、このカイロプラクティックが素晴らしい治療法、医療方法の一つとして世間でも理解され、認知され、そして認められるよう皆さまの一層のご奮闘を心から祈念いたしましてお祝いの挨拶とさせていただきます。



WFCのカウンシル会議が1998年5月4日、南アフリカのケープタウンで行なわれた。10カ月前の東京大会以来、WFC執行委員会は多忙だった。第1点は、WFCトロントの事務局のスタッフ増員やWFCの規約の見直しを進めたこと。第2点は、日本問題で代表のCCJを資格停止処分することになり、多大な時

間が費やされた。第3点は、今後1年間に予定される3つの重要な会議の準備に追われた。1つは1998年8月のハンガリーで予定される世界医学法律会議、2つ目は1998年10月に予定されるマニラでのカイロプラクティック教育の国際化会議。3つ目は1999年5月、ニュージーランドで開催予定の次回WFC大会。

昨年WHOに加盟以来、WHCは正式なWHOの一員として積極的な活動をしてきた。例えば、1998年WHO総会に参加、各地域でのWHO会議出席し、WHOの会合で4つの報告を行なった。その他WHOと学術書編纂と研究ワークショップでも協力が進んでいる、との報告があった。

今回の会議には日本から、資格停止中のCCJより川西陽三チェアマン、新たにWFCに加盟申請を行なったJACのバジェ副会長が出席し、会議では両サイドの意見陳述と質議応答があった。JACの入会申請書には、入会希望理由、規約、組織、CCJとDCLCの問題点などが詳細に添付されていた。カウンシルとしては、除名や入会は1年後の総会決議事項なので、それまで2つのグループに和解するよう勧告した。CCJは指定期限まで回答を提出しなかったため、この会議で資格停止は解除されなかった。

WFC主催 グローバル時代を迎えて カイロ教育国際会議をマニラで開く 1998 Conference on the Internationalization of Chiropractic Education in Manila

初めての教育会議

カイロプラクティックは世界中に広まり、カイロプラクティック教育は、いまや英語以外に仏語、日本語、デンマーク語、韓国語、ポルトガル語などで教えられている。言葉が多様化すると、次は教育内容が問われる。今回初めて世界のカイロ教育関係者を集めて、いまのグローバル時代「カイロ教育はいかに教えられるべきか」をテーマに9月28日から3日間WFCのワークショップが行なわれた。発展するアジアを注目するように会場はフィリピンのマニラが選ばれた。

WFCのスエニー会長は「世界中に質の高いカイロ教育プログラムを展開するのはWFCの最優先課題」と述べ、会議への意気込みを示した。

会議の中で、現在世界に国際基準のカイロ教育プログラム（大学）が32校あること、米国と米国以外の大学は半々だが、今後は米国より米国以外の国で増加する予測が述べられた。カイロの教育

プログラム（大学）がグローバル化すると、国際間で教育面でのさまざまな調整、情報交換、相互協力が必要になる、との指摘があった。

会議初日前夜の歓迎レセプションでは、WHOを代表してフィリピン在住のケンWHO伝統医学局長が挨拶。またフィリピン政府を代表してゴンザレス教育省長官が挨拶した。

共通の教育方針を

初日の冒頭に医学部もあるフィリピン名門デラサレ大学のディゾン学長が開会と歓迎の挨拶を行なった。同大学にカイロプラクティック学部を計画しているディゾン学長は、世界のグローバル化にともないカイロプラクティックを含め各分野

は共通の言語と共通なパラダイムをもつ必要性があると述べた。

ワークショップのテーマは、カリキュラム・デザイン、国際教育憲章の説明と運用、各大学の報告、新しい教育の試み、教育の問題点と疑問点など広範囲に及んだ。特に最近では総合大学の中にカイロ学部が作られるケースが増え、興味ある意見交換が行なわれた。次回2年後の会議は、カイロプラクティック教育の中での「哲学の役割」をテーマに決めた。

▼スエニー会長挨拶



WFC主催 1998 日本カイロプラクティック教育コンセンサス会議

WFC Sponsors Japanese chiropractic Concensus Meeting

日本で初めてのカイロプラクティック教育コンセンサス会議が国内14の団体、教育グループを集めて10月10日、東京新橋のRMIT大学日本校で開かれた。これは昨年のWFC東京総会で採択された国際カイロ教育憲章の説明を兼ね、WFCが主催したもの。この会議を開催したのは、1996年来日したWFCチャブマンズミス事務総長が「WFCとして今後日本を重視する」ことの実行でもあった。

スエニー会長は開会の冒頭次のように述べた。

「本日は日本のカイロの歴史的な日になるかも知れません。世界の多くは政府が法律でカイロを承認しています。法制化は業界の成熟さの証であります。どの国も業界がまとまらなければ法制化は望めません。近年ではキプロス、英国、香港で法制化が成りました。私たちが日本を重視するのは、日本がアジアだけでなく、世界全体に大きな影響力を与える立

場にあるからです。WFCが日本のカイロ教育のお役に立てればと思います」。

会議にはこの開催を支持する16通のFAXが海外から届いた。マレーシアの代表は「日本でのカイロ教育に最低基準を設けることを支持します。これまでの日本のあいまいな態度はアジア全体に悪影響を及ぼしてきました。日本のカイロプラクターがいまでも素人にカイロのテクニックを教え、職業モラルに反することを続けているのは驚きです。すべての人は、自分の利益よりカイロの利益と患者の安全を最優先すべきです」とあった。会議では教育問題が真剣に討議され、最後に共同声明文を採択した（右に全文掲載）。



共同声明文

日本のカイロプラクティック
教育基準に関する共同声明
1998年10月10日

- 日本のカイロプラクティック業界は教育に関して、これまで最低限の教育基準にも合意できませんでした。しかしここに合意を望みます。
- 日本におけるカイロ教育指導者がこの目的のために招待され、ここに共同宣言を行なうことになりました。
- ここに合意文を示し、その証拠として署名致します。

- (1) 今後日本でカイロプラクターになるための教育を受ける者は、国際基準に達しているか、もしくは達することのできるプログラムで教育を受けた場合にのみ、それが可能であること。
- (2) 今後5年から8年のうちに、国内で訓練を受け、国内で就業するカイロプラクターはすべて、最低限カイロプラクティック学士レベルまたはそれと同等の教育を受けているようにすること。

- (3) 最初から国際基準でプログラムを行なうことができない場合、今後日本で新規プログラムを開設しないこと。

以上

(注) 国際基準のプログラムとは「WFCの認める公式な認定機関の承認を受けたプログラム」をいう。

WFCが主催 「日本と世界のカイロ教育」講演会

教育コンセンサス会議の翌日、新橋の日赤会館で、WFC主催「日本と世界のカイロ教育」と題する講演会があった。講演会ではWFCのスエニー会長、チャブマンズミス事務総長、RMITのクレイ

ハンス教授。日本側からは中塚祐文DCと川西陽三CCJ代表が講演した。WFC側は世界のカイロ教育のグローバル化を説明し、日本も基準を尊重し国際社会に仲間入りする重要性を説いた。



第5回WFC総会、オークランドで開く

World Chiropractic Congress—Auckland, New Zealand

1999年5月18～22日



WFC大会がニュージーランドのオークランドで開かれた。大会前半の5月18、19両日は総会、後半の20日から3日間はWHO後援の科学シンポジウムが開かれた。今回は欧州カイロ連合の日程と重複したため参加国は36カ国に留まったが、会場では熱心な討議が繰り広げられた。

WFCの事業が拡大するにつれ、各国会員に対するサービスの需要が増し、事務局整備が急務になった。幸い1996年に新設された賛助会員制度のため正規な会費に匹敵する資金が確保され、WFC事務運営が順調に進んでいるとの報告があった。アンケート調査の結果、各加盟国はWFC事務局の仕事に高い評価を与えていることが判明した。

近年、拡大したWFCの役割のためWFCの規約改正に取り組んできたが、今回の総会で説明と討議、採択が行なわれた。

また変化の激しいヘルスケアの中で、カイロプラクティックのアイデンティティと役割を規定する必要性が高まった。そこで今回は懸案事項であったカイロプラクターの薬物使用に関する宣言と辞書等で使うカイロプラクティックの一般向けの定義の合意が行なわれ、それぞれ正式に採択された（全文掲載）。

チャプマン・スミス事務総長は臨床業務の中で、腰痛、頸痛、頭痛だけでなくカイロの治療対象となるすべての疾患のデータ収集の必要性を説いた。また他業種と業務を通じて良好な関係を作る重要性も説き、孤立の危険性を警告した。

WFCの総会は、1998年5月マニラでの「カイロプラクティック教育の国際化会議」に続いて、2000年11月、カイロプラクティック教育の中で「哲学」の役割を協議する会合を行なうことに決めた。次のWFC総会は2001年、パリで開かれる。

薬物処方に関するWFC宣言

- ・科学・哲学・技術を協調するカイロプラクティックは常に自然治癒力を重視し、薬物外科をもちいないことを前提に発展してきた。
- ・WFCは患者の利益、職業間の協力に鑑みて、カイロプラクティックにおいて薬物使用はその範疇でないことを確認し、もし薬物使用が必要と思われる患者には適当な専門家を紹介することとする。

辞書などでのカイロ定義の合意

「カイロプラクティックとは、筋骨格系の機能・構造的な障害と、それが及ぼす神経系の機能異常、ひいては健康全般への影響を診断、治療、予防する専門職である。脊椎マニピュレーション（アジャストメント）を主にした徒手治療を特徴とする」

CCJに代わりJACが日本の代表に

JAC admitted as new WFC member

WFCオークランド総会の議題で一番注目を集めたのはCCJの除名問題であった。WFC執行部は1998年1月にCCJを資格停止処分にし、5月の南アでのカウンシル会議もそれを支持した。

資格停止の理由は①財団支持がカイロ業界の利益に反すると判断したこと、②CCJが会員による素人教育を禁止する倫理規定を期限までに作らなかったこと、③CCJは広い層のカイロプラクティックを代表していないこと、などであった。

日本カイロプラクターズ協会（JAC）は1998年2月にCCJ総会が財団支持を決議したのをきっかけに、翌3月に倫理規定とオープンな運営を旗印に発会した。もしCCJの資格停止が解除されなければWFC加盟申請を検討していた。

CCJとJACの対立を心配したWFCスエニー会長とチャプマン・スミス事務総長

は、98年秋来日の際に両DC団体代表を集め、合併して新組織CAJ（カイロプラクティック・アソシエーション・オブ・ジャパン）を作ることを提案、両団体も準備委員会を作ることで合意した。しかしWFCの出した最終案は、CCJの消極姿勢で暗礁に乗り上げてしまった。

JACは創設時に国際基準である職業倫

理（カイロを適切な場以外で教えないこと）を決め、WFC加入を申請した。WFCは第5回総会で、CCJの除名とJAC加入を決議、新たにJACが日本のナショナル・オーガニゼーション（代表団体）に認められた。総会后、JACとWFCは合同役員会を開き、今後の日本問題を協議した。



左から
真山事務長
バジエル副会長
スポテリWFC会長
中塚会長

日本カイロプラクターズ協会が順調なスタート

Japanese Association of Chiropractors' makes a sound and strong start



日本カイロプラクターズ協会は下記のWFC書簡により正式承認された。早速1999年10月に、WFC後援で初めての事業・国際科学シンポジウムをJCA・RMITと共同で開催。海外3カ国から専門家を招き、生理学の権威・佐藤昭夫教授を座長にカイロプラクティックの危険性と有効性を真正面から取り上げた。

10月24日には、WFC承認後初の総会が開かれた。

会議は定足数の確認、前回議事録確認、報告事項、審議事項、委員会報告の順序

しが出ていること、スポーツ団体FICS（国際スポーツ・カイロプラクティック連合）との会談報告が行なわれた。

次に上程議題の審議に移り、最初に第1号議案・カイロプラクティック認可顧問評議会の設立を決めた。これは海外のカイロ認可団体と協力する窓口となる。第2号議案は、カイロプラクターの知識・技術・倫理を管理する独立組織、日本カイロプラクティック登録評議会の設立を承認した。第3号議案は、今後のスポーツにおけるカイロプラクティックの

で進められた。

報告事項では、現在会員数が102名、JCAとJACの合併の話

重要性和国際的なカイロ・スポーツ代表機関からの要請に応じて、日本に独立した日本スポーツ・カイロプラクティック評議会設立を承認した。第4号議案は、日本に東京教育会議（1998）の共同声明を徹底し、国際的レベルの教育機関設立を支援するため、独立した組織・日本カイロプラクティック学校評議会の設立を承認した。第5号議案は、今後カイロの基礎・臨床研究を積極的に経済支援するため、独立し自己の財源をもつ仮称「日本脊椎研究財団」設立を承認した。第6号議案では会則と細則の修正案を可決した。次に各委員会報告が行なわれた。

日本カイロプラクターズ協会は、順調なスタートを切った。特に10月の総会において、将来の布石となる各組織の設立が会員に支援されたことで、21世紀のカイロ業界のグランドデザインがより鮮明になってきたといえよう。

WFCがCCJとJACに正式通告

川西陽三CCJチェアマン殿

日本カイロプラクティック評議会（CCJ）の世界カイロプラクティック連合の会員資格が、1999年5月19日、ニュージーランドのオークランドで開催された総会で投票により廃止されたことを正式に通知します。

この決定は、特に、容認しがたい教育コースの実施にCCJメンバーが加担することを防ぐ教育倫理規定を採択することができず、CCJメンバーがそのようなコースを行なうことを容認し続け、カイロプラクティック業界の名誉と利益に反したことによります。会員資格廃止は、総会の出席・投票者の少なくとも三分の二の票が必要です。約85%（63対11）が廃止賛成票でした。

引き続いての会議で、日本カイロプラクターズ協会（JAC）がWFC会員として承認されました。したがって、今後CCJとWFCの対話は、事前にJACの承認を得るかそれを伴うものでなくてはなりません。

最後に、WFCは、元議長の遠藤光政、中垣光市ドクター、そして貴殿を含む様々なCCJのリーダーに対し、多大な敬意を持つことをお知らせします。あなたがたは個人的に多くの時間と努力を惜しまず、ご自身が最適と感じたカイロプラクティックの発展に献身されました。

しかし、WFCの会員団体という形式による世界のカイロプラクティック界では、何年もの間、日本が教育改革を行なうのを辛抱強く待っていたのであり、今後これらの必要な改革を実施しうる日本の代表団体としてJACを支援します。WFCは、貴殿のような献身的カイロプラクターがJACにおいて積極的に参加し、日本のカイロプラクティックが国際的にこの職業をリードする力となることを強く望んでいます。それは私たち全員にとって非常に重要なことです。

WFC事務総長 チャブマンズミス

中塚祐文JAC会長殿

1999年5月19日、ニュージーランド・オークランドで開催された世界カイロプラクティック連合第5回総会において、日本カイロプラクターズ協会がWFC会員に承認されたことを、正式に確認します。心よりお祝い申し上げます。

日本カイロプラクティック評議会（CCJ）宛てに、会員資格廃止の正式通知を行なった手紙のコピーを同封します。両方の手紙の重要性を考慮し、日本語及び英語表記で送付します。日本における標準や団結に関し、今後長きにわたってJACが活躍されることを期待しています。この仕事は、国際社会における日本の重要性からして、世界のいたるところのカイロプラクティックの将来に重要な影響を持つことになるでしょう。

WFC事務総長 チャブマンズミス